

日時/会場	題目	座長および話題提供者
<p>【研01】 9月20日(水) 9:00-10:30</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>リニアコライダープロジェクト:長大トンネルと大規模地下空洞でつくる世界の科学技術拠点 ~実現のための土木技術の課題と展望~</p> <p>岩盤力学委員会、トンネル工学委員会 共催</p>	<p>座長 清水則一 山口大学大学院理工学研究科社会建設工学専攻教授 リニアコライダー(ILC)土木技術研究小委員会委員長</p> <p>話題提供者 榎本收志 高エネルギー加速器研究機構教授 大津宏康 京都大学大学院工学研究科都市社会工学教授 市川康明 名古屋大学 環境学研究科都市環境学専攻助教授 芥川真一 神戸大学工学部建設学科助教授 佐野信夫 中日本高速道路㈱中央研究所トンネル研究室長 清木隆文 宇都宮大学工学部建設学科助教授 近久博志 山口大学地域共同研究センター教授</p>
<p>【研02】 9月20日(水) 10:50-12:20</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>AE法を用いた地圧評価法 ~国際標準化と今後の活用に向けて~</p> <p>岩の力学連合会</p>	<p>座長 瀬戸政宏 (独)産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門</p> <p>話題提供者 金川 忠 日特建設(株) 横山幸也 応用地質(株) 畑 浩二 (株)大林組</p>
<p>【研03】 9月20日(水) 13:00-14:30</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>情報化施工の普及を阻むもの —IT化施工技術の技術開発の動向 と実用展開における問題点—</p> <p>建設用ロボット委員会</p>	<p>座長 神崎 正 香川大学工学部・安全システム建設工学科教授 土木学会建設用ロボット委員会委員長</p> <p>話題提供者 上坂克巳 国総研情報基盤研究室室長 山元 弘 土木研究所先端技術チーム主席研究員 建山和由 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授 先村律雄 トプコン測量機器事業部課長 古屋 弘 (株)大林組</p>
<p>【研04】 9月20日(水) 14:50-16:20</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>土木はおもしろい！—私が土木技術者になった理由—</p> <p>教育企画・人材育成委員会 男女共同参画小委員会</p>	<p>座長 岡村美好 山梨大学大学院医学工学総合研究部 日下部治 東京工業大学大学院理工学研究科教授</p> <p>話題提供者 天野玲子 鹿島建設(株)土木管理本部土木技術部部長/東京大学客員教授 渡邊弘子 月の泉技術事務所 島村亜紀子 前田建設工業(株)土木技術部 田畑美紀 山口大学大学院理工学研究科社会建設工学専攻</p>
<p>【研05】 9月20日(水) 16:40-18:10</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>ジオリスクエンジニアリング/マネジメント ~岩盤構造物の上手な作り方、使い方~</p> <p>岩盤力学委員会 岩盤構造物の創造・保生に関するマネジメント研究小委員会</p>	<p>座長 大津宏康 京都大学</p> <p>話題提供者 亀村勝美 大成建設(株) 尾ノ井芳樹 電源開発(株) 峯 敏雄 電源開発(株) 中村一樹 応用地質(株)</p>
<p>【研06】 9月21日(木) 9:00-10:30</p> <p>プリズムハウス P10+P202</p> <p>2階の教室へ変更となりました</p>	<p>都市景観における舗装のあり方</p> <p>舗装工学委員会</p>	<p>座長 牧 恒雄 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科教授</p> <p>話題提供者 並河良治 国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部道路環境研究室長 石川 響 東京都建設局道路管理部安全施設課景観整備担当係長 村井貞規 東北工業大学工学部建設システム工学科教授 水野政純 大成ロテック㈱生産技術本部技術部課長</p>

リニアコライダープロジェクトは、宇宙と素粒子の謎を解き明かすための世界的な研究拠点を作ろうとするものもある。その施設は地下に造られ、主要部は全長約50kmのトンネルと大規模地下空洞で構成される。現在、日欧米間において研究施設の誘致合戦状態にあるこのプロジェクトにおいては、わが国の物理学の研究レベル、加速器機械設備やシステムに対しては高い評価を受けている。しかしながら、この施設を日本に誘致するためには、山岳地域で複雑な地質を特徴とする日本サイトにおける実現の可能性や有効性を論証する必要があり、岩盤工学やトンネル工学の協力なくして、日本への誘致はあり得ない状況にある。土木学会では、研究主体である高エネルギー加速器研究機構からの協力要請にこたえるために、「リニアコライダー(ILC)土木技術研究小委員会」を設立して日本誘致への協力をしようとしている。同時にこれは世界の科学技術の発展のために、土木工学分野がいかに関与できるかというチャレンジングな課題でもある。本研究討論会では、設立した委員会の組織活動とプロジェクトの主要部分を占める地下建設における土木技術的課題について研究討論を行い、今後の展望を探るものである。

今般、AE法を用いた地圧評価法がISRM Suggested Methodとして標準化された。これにより、これまで専門的な技術であったAE法による地圧測定が公共的ツールとなるための基礎が確立されたと言える。今後は、標準化されたAE法をベースとして、AE法を活用するすべての技術者が、AE法に関する知識、留意点を共有しながら、地圧測定の信頼性(Confidence)の向上を図るためにAE法をさらに発展させていくことが必要である。本討論会では、標準化されたAE法のベースになっているノウハウ、スキル、留意点を共有するために様々なケーススタディや実験結果などの話題提供を行い、これをもとに、信頼性の高い地圧測定を今後実現していくためのAE法の活用の方向性について討論する。

最先端のITやロボット技術を活用して、土木施工における危険・苦渋作業を解消するとともに、一般施工現場への導入により業務の効率化、コスト縮減、品質向上を図ることを目的として、情報化施工・IT施工システム技術が各分野で研究・開発されている。近年は従来の計測器や施工機械を中心とした情報化施工に加え、CADを中心としてデータ交換を考慮しつつ設計データを基に施工管理、品質・出来形の取得を行うモデルベースの情報化施工の概念も進展し、要素技術としては完成しつつある。しかし、情報化施工の推進は長く謳われているものの、その普及は大規模工事に限られ、また発注者と施工者の目指すところにも差異があるようである。本研究討論会では、「情報化施工」に関しての技術開発の目指すところと現状を各分科から紹介していただき、将来に向けて解決すべき課題や展望について議論する。

最近、工学系学科への進学率が低下する中で、土木系学科で学ぶ女子学生や若手の女性土木技術者は年々増えている。しかし、大学や職場においてロールモデルとなる先輩女性が不在の場合も多く、女子学生や若手女性技術者が将来に不安を感じる要因ともなっている。本討論会では、現場で活躍する女性土木技術者と女子学生が中心となって土木の魅力について語り合うことにより、学生や若手技術者の将来に対する不安を解消するとともに将来に向けてのネットワーク作りの場を提供する。

高度経済成長期においてエネルギー供給施設や交通ネットワークなどの社会基盤整備において多大な貢献をしてきた岩盤力学にも今や、これまでの「足らざるものを建設する」技術から、「質の高い社会基盤構造物を合理的に創造・保生する」技術へのパラダイムシフトが求められている。このような新しい建設マーケットの課題に対処するために岩盤力学に関わる技術者は、従来型の力学に関する要素技術に加えて、いわゆる社会経済学等の学際的知識に基づくマネジメント技術を備える必要がある。しかし、我が国の建設分野は要素技術としては世界でトップクラスにあるにもかかわらず、上述のマネジメント技術についてはいささかお寒い状況にあるのが現状である。このような観点から、本討論会では①地下岩盤工事における建設コスト変動リスクとは何か？その評価手法は？②岩盤構造物のアセットマネジメントとは何なのか？について最新の話題を提供する。そして討論会参加者と共に岩盤力学に関わる技術者に求められるエンジニアリングエコノミー感覚とは何なのかについて討論する。

美しい国づくり政策大綱や景観法が施行され、各地で景観を考えたまちづくりへの関心が高まっている。都市景観では、沿道の建築物や街路樹、標識や屋外広告、舗装などが主な対象となるが、このうち歩行者系舗装には、街並みを印象づけるだけでなく、歩道を都市の快適な公共空間に作り上げ、歩行機能性を高めることが要求される。そこで、本研究討論会では産学官から話題提供者を招き、舗装の実務と研究の立場から、都市の舗装が都市景観に及ぼす影響やそれらの評価手法、ユニバーサルデザインを考えた景観舗装のありかたなどについて討論する。

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研07】 9月21日(木) 10:50-12:20 プリズムハウス P101P202 2階の教室へ変更となりました。	インド洋津波からスマトラ沖地震を分析する 海岸工学委員会・地震工学委員会 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会	座長 藤間功司 防衛大学校 話題提供者 松本浩幸 海洋研究開発機構 高橋智幸 秋田大学 越村俊一 東北大学 富田孝史 港湾空港技術研究所 家村浩和 京都大学
	2004年12月に発生し大被害をもたらしたスマトラ沖地震・インド洋津波では、地震・津波・被害状況に関する大量のデータが収集された。津波小委員会では地震学分野の研究から得られたスマトラ沖地震のメカニズムを考慮してインド洋各地の津波伝播計算を行い、各種実測データとの比較を行なった。それをもとにスマトラ沖地震の実像について迫りたい。また、被害から推定される津波の力をもとに、どのように設計に生かすべきかを考える。	
【研08】 9月22日(金) 10:50-12:20 プリズムハウス P101P202 2階の教室へ変更となりました。	性能設計推進のための設計審査体制を考える 構造工学委員会 性能設計推進のための審査体制検討小委員会	座長 小池 武 武蔵工業大学 話題提供者 白木 渡 香川大学 香月 智 防衛大学校 井上雅夫 建設技術研究所 藤田宗久 清水建設 発注者の方 発注者の方 建築関係の方
	性能設計体系を確立するための仕組み造りをどのようにすればよいのかという問題意識が顕在化している。その中でも、設計結果が要求性能を満足していることをどのような仕組みで照査するかという検討が十分になされているとは言えず、早急に検討すべき課題となっている。基本的には、第三者的な設計審査機関が設計結果を照査するという仕組みが考えられるが、その審査機関の実体や機能は未だに明確にはなっていない。このような現状を踏まえて、本小委員会は、性能設計体系における設計審査体制を提案することを目的とし、活動している。研究討論会では、設計審査体制を検討するうえで重要な課題について討論し、今後の活動に役立てていきたい。	
【研09】 9月22日(金) 13:00-14:30 プリズムハウス P101P202 2階の教室へ変更となりました。	公共事業の景観評価を考える 景観・デザイン委員会	座長 篠原 修 政策研究大学院大学 話題提供者 齋藤 潮 東京工業大学 上田孝行 東京大学 調整中 国土交通省 福井恒明 国土技術政策総合研究所
	公共事業においては、効率性および透明性の向上を図るため、事業評価が実施されるようになった。一方、美しい国づくり政策大綱や景観法を踏まえ、景観の分野においても公共事業における景観アドバイザー制度や景観アセスメント(景観評価)システム試行などが実施されている。そうした状況の中で「公共事業の実施にあたって、景観をどのように評価するのか」という課題が改めて浮き彫りになっている。これについては設計手続から人間の環境認識に至るまで様々なレベルの議論がなされているが、仮に不適切な評価方法が定着すればかえって景観形成の足かせとなりがねない重要な問題である。そこで本討論会では、公共事業によってよい景観を実現することを前提とし、その手段として有効な景観評価のあり方について議論を行う。	
【研10】 9月22日(金) 14:50-16:20 プリズムハウス P101P202 2階の教室へ変更となりました。	トンネル技術の継承と伝承—さらなる発展のために— 技術小委員会 トンネル技術史部会および運営小委員会 技術交流部会	座長 赤木寛一 早稲田大学理工学部社会環境工学科教授 話題提供者 須賀 武 大豊建設(株) 小山幸則 (財)地域地盤環境研究所 蔣 宇静 長崎大学 服部修一 鉄道運輸機構 松尾勝弥 飛鳥建設(株) 斉藤正幸 日本ソビックコンサルタント(株) 森 正彦 前田建設工業(株) 土門 剛 首都大学東京
	日本におけるトンネル技術は、未だ解決すべき問題は抱えながらも技術的にはほぼ成熟の域に到達したと言っても過言ではない。その一方で、昨今の社会情勢の急激な変革の煽りを受けて、その技術を次の世代に伝えていくことが極めて難しくなったとも言われている。本研究討論会の前半では、現在のトンネル技術がどのようなプロセスを経て発展してきたかを先人達の肉声や資料に基づいて興味深いエピソードを交えながら紹介する。後半では、トンネル技術発展のために、1)どのように経験やノウハウを伝えていけばよいか、2)今後取り組むべき課題やその解決策とは、について話題提供者の紹介事例に基づいて総合的な討論を展開する。	
【研11】 9月20日(水) 10:50-12:20 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	ダムが有する治水機能の再評価と豪雨対策 水工学委員会	座長 辻本哲郎 名古屋大学 話題提供者 山田 正 中央大学 久保田勝 国土交通省河川局河川環境課 小松利光 九州大学 角 哲也 京都大学 道奥康治 神戸大学
	ダムはこれまで多大な治水効果を発揮し、豪雨災害の軽減に大きな役割を果たしてきた。しかし、人口・産業構造、降雨の統計特性など河川流域の社会・自然環境は経年的に推移し、堆砂の進行、流域の変貌など、ダム運用に関わる外因・内因には明らかな変化が生じている。激甚化する豪雨事象、社会の経年変化、ダムの加齢など建設当初とは異なるダムの周辺状況を背景として、ダムの治水機能を再評価し、新しい時代におけるダム管理・運用のあり方を河川工学の側面から討議・討論する。	
【研12】 9月20日(水) 13:00-14:30 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	技師から職士へ！ 退役土木技術者はボランティア・エンジニア コンサルタント委員会	座長 藤田俊英 NPO法人ビーヴ理事、コンサルタント委員会委員長・幹事 話題提供者 日下部治 東京工業大学大学院教授、コンサルタント委員会委員長 角野昇八 大阪市立大学理事・副学長 須田日出男 NPO法人社会工学研究所理事長、土木施工誌編集委員 三宅雅子 作家・土木学会出版文化賞受賞者
	当委員会の最新活動分野である「合意形成プロデュース」と「エンジニアリング・デザイン教育」の斬新な成果を、さらに飛躍・発展させて一般社会への公益に繋げるため、社会全般の関心事である「団塊世代問題」に当てはめ、数年前に大量に発生する退役団塊土木技術者が「一般社会から期待される生き方」について討論する。話題提供は、300年前の大和川川付替え功労者の中基兵衛翁を角野が、土木学会映画三賞受賞作「掘るまいか」の企画から製作の過程を三宅が紹介し、この二例を日下部と須田がエンジニアリング・デザインと合意形成プロデュースの側面から解説する。その後、会場全体が団塊世代を象徴する二例を積分した「生き方」の解を求め、退役土木技術者がボランティア・エンジニアとなる方向性を探る。	
【研13】 9月20日(水) 14:50-16:20 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	PFIにチャンスはあるか？ ～土木におけるPFIのありかた、将来は～ 建設技術研究委員会	座長 川嶋信義 建設技術研究委員会委員長、前田建設工業(株)代表取締役執行役員副社長 話題提供者 有岡正樹 立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科・客員教授 野田由美子 PwCアドバイザリー株式会社パートナー
	平成11年にPFI法が施行されてから7年が経過した。その後わが国で実施されてきたPFI事業は建築物が主体であり、PFIの今後の普及・拡大を考えれば土木事業への活用を訴える意見は多い。しかし、土木分野へのPFI導入に関しては、克服すべき課題も多いのが実情である。建設産業が活性化するため、土木事業におけるPFIの実態と課題、海外での土木事業におけるPFIへの取り組みを確認し、今後の展望を考えていく必要がある。土木事業における今後のPFIのありかた、その将来についてパネリストと共に会場で討論したい。	

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研14】 9月20日(水) 16:40-18:10 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	低レベル放射性廃棄物の余剰深度処分に関する技術の現状について エネルギー土木委員会	座長 大西有三 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 教授 話題提供者 河西 基 (財)電力中央研究所 地球工学研究所バックエンド研究センター センター長 辻 幸和 群馬大学 工学部 建設工学科 教授 西垣 誠 岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 教授 鈴木 義和 日本原燃株式会社 埋設事業部 開発設計部部长 加藤 和之 電気事業連合会 余剰深度処分推進プロジェクト サブリーダー
		原子炉施設の運転と解体に伴い発生する炉内構造物等の放射化金属等の放射性廃棄物は、一般的であると考えられる地下利用に対して十分な裕度をもった深度に埋設処分することが適切であるとされている。余剰深度処分に係る事業許可に必要な省令は今後原子力安全・保安院にて検討される予定となっている。また、日本原燃は、余剰深度処分施設の検討にあたり、本格調査を実施している。このような状況の下、土木学会エネルギー土木委員会では「低レベル放射性廃棄物の余剰深度処分に係る研究小委員会」を設置し、天然バリア及び人工バリアに関する技術検討を実施している。本研究討論会では、余剰深度処分に係る技術の現状と今後の展望について小委員会での活動状況を中心に議論するものである。
【研15】 9月21日(木) 9:00-10:30 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	外から見た土木 -社会コミュニケーションにおける土木学会の役割- 企画委員会 社会コミュニケーション委員会	座長 鈴木 誠 土木学会社会コミュニケーション委員/清水建設 話題提供者 依田照彦 土木からの「総合学習」支援活動/早稲田大学 田村喜子 「京都インクライン物語」が映画になった/作家 緒方英樹 「土木の絵本」と一般社会/全国建設研修センター 澤 誠之助 「100万人の市民現場見学会」/日本土木工業協会 マスコミ関係者
		現在、「土木」に対する社会的な批判には厳しいものがある。しかし、このような批判の中には、誤解や情報不足からの浅い理解にもとづくものも少なくない。本パネルディスカッションでは、このような状況を踏まえ「土木学会」が行うべきコミュニケーション活動のあり方と土木学会の体制整備について議論する。
【研16】 9月21日(木) 10:50-12:20 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	公共調達制度を考える ~土木技術者の信頼回復を目指して~ 建設マネジメント委員会	座長 小澤一雅 東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 話題提供者 伊藤喜栄 大成建設 顧問 尾野村祐治 時事通信社産業部 記者 郷原信郎 桐蔭横浜大学コンプライアンス研究センター 特任教授 佐藤直良 国土交通省大臣官房 技術審議官
		2006年に入り、改正独禁法の施行、官製談合防止法の改正など受注調整行為に対する罰則強化がなされる中、大手ゼネコンを中心として『脱談合宣言』が発せられた。我が国の公共工事システムが抱える問題の根底には、技術や技術者が活かされていないという問題がある。これを解決するためには、技術者の創造的な活動を外から見えるシステムを実現し、技術競争を社会的に支える仕組みを作ることが必要と思われる。産業を支えるインフラ基盤の着実な整備と、これを担当する土木技術者の健全な発展のためには、今まさに、公共調達制度のあり方を一般国民の視点も交えて議論する時である。土木技術者の信頼回復を目指して、…。
【研17】 9月22日(金) 10:50-12:20 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	土木遺産の維持管理に係る技術的課題 土木史研究委員会	座長 五十畑 弘 日本大学 話題提供者 久田 真 東北大学 (調整中) 神戸市水道局計画課 北河次郎 文化庁 (他、調整中)
		土木遺産に対する社会的関心の高まりを背景として、近年、国土整備における土木遺産の役割が拡大している。それに伴い、土木技術者には、構造物の文化的価値に配慮した施設管理を行うという、わが国の新たな文化の担い手としての役割が求められ始めている。しかし、こうした現況に対する技術者の認識や、技術的蓄積は十分とは言えない。そこで、土木遺産の維持管理に係る具体的事例を取り上げながら、土木遺産をめぐる現況、課題、今後の展望について討論したい。
【研18】 9月22日(金) 13:00-14:30 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	FCG in 全国大会 「グローバルゼーションってどうすればいいの？」 土木学会関西支部	座長 調整中 話題提供者 調整中
		前日に開催される全体討論会の議論を受け、一土木技術者として、個人として、「土木のグローバルゼーションに対して何ができるのか」、あるいは「どうすればいいのか」といった内容について議論します。まず、現在日本で勉強しているアジアからの留学生に社会基盤整備を中心とする各国の現状を語ってもらいます。また、発展途上国において実際に協力事業を行っている様々な分野の方から、現場の課題や日本人技術者に望まれることについて話をしてもらいます。さらに、フォーラム参加者と一緒の世界の各地域で活躍する土木技術者になる方法を考えていきます。
【研19】 9月22日(金) 14:50-16:20 プリズムハウス P102P203 2階の教室へ変更となりました。	新潟県中越地震における「斜面複合災害」 -総合的斜面工学からの検討- 地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会	座長 後藤 聡 山梨大学 話題提供者 稲垣秀輝 (株)環境地質 上野将司 応用地質(株) 太田英将 (有)太田ジオリサーチ 櫻井正明 (財)林業土木コンサルタンツ技術研究所 小川紀一郎 アジア航測株式会社 中野裕司 中野緑化工技術研究所 大野博之 長崎大学
		2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による斜面災害は、第三紀層地すべり多発地帯の豪雪地帯で発生したもので、今後の時間経過をおいて、降雨や融雪および余震等の誘因が相乗的に影響する「斜面複合災害」が発生する可能性が高いと考えられる。一方、21世紀の斜面工学は、斜面の力学的安定だけではなく、防災、維持管理、環境・生態系、景観・計画等の「総合的斜面工学」からの検討が必要である。そこで、地震直後の斜面災害の状況および融雪や降雨等を経た約2年間の状況について、総合的斜面工学の見地より現地調査を救回実施した。これらの現地調査結果を題材にして、これからの山間地での地震災害の軽減・予防や復旧・復興のあり方等について、広く討論する。
【研20】 9月20日(水) 10:50-12:20 プリズムハウス P201	アジア地域の地震災害科学への貢献 ~土木計画学からのアプローチに対する期待~ 土木計画学研究委員会	座長 調整中 話題提供者 Rajib Shaw 京都大学 鈴木弘二 アジア防災センター 鎌田泰子 神戸大学
		自然災害や社会的ハザード(事故、テロなど)から安全で安心な空間の創生は、今日の都市・地域に求められる本源的な要請である。災害科学の中で、計画学的な発想は極めて有効であると思われるが、その実践的・具体的な議論はこれまで必ずしも十分ではなかったように思われる。本研究討論会では、アジア地域の地震災害を例として、地震防災工学、災害科学、防災・減災を専門とする計画学以外の研究者や行政担当者へ参画いただき、自身の経験・関心と計画学への期待を話題提供いただくと同時に、フロアと意見交換を行うことにより、今後の計画学研究のひとつの方向性を考えたい。

日時/会場	題 目	座長および話題提供者
【研21】 9月20日(水) 13:00-14:30 プリズムハウス P201	地震工学のフロンティア ー統合シミュレーションの可能性ー 地震工学委員会 統合地震シミュレータ研究小委員会	座長 堀 宗朗 東京大学地震研究所 話題提供者 市村 強 東京工業大学 大保直人 鹿島建設 庄司 学 筑波大学 多々納裕一 京都大学防災研究所 能島暢呂 岐阜大学
【研22】 9月20日(水) 14:50-16:20 プリズムハウス P201	インフラ構造物の維持補修における複合新技術の利用 複合構造委員会	座長 上田多門 北海道大学大学院工学研究科環境創生工学専攻教授 話題提供者 河野広隆 京都大学 大学院工学研究科都市環境工学専攻 教授 本間淳史 中日本高速道路(株)中央研究所橋梁研究室長 市川篤司 (財)鉄道総合技術研究所構造物技術研究部長 横田 弘 (独)港湾空港技術研究所研究主監 LCM研究センター長 大垣賀津雄 川崎重工業(株)大型構造物BC技術総括部参事
【研23】 9月20日(水) 16:40-18:10 プリズムハウス P201	コンクリート標準示方書と構造物の照査・検査システム コンクリート委員会	座長 魚本健人 東京大学生産技術研究所 話題提供者 石橋忠良 東日本旅客鉄道株式会社 田中仁史 京都大学(建築) 玉越隆史 国土交通省国土技術政策総合研究所 渡辺泰充 清水建設株式会社
【研24】 9月21日(木) 9:00-10:30 プリズムハウス P201	拡がる継続教育(OPD) 継続教育実施委員会	座長 大島一哉 継続教育実施委員会前委員長、(株)建設技術研究所 話題提供者 足立敏之 国土交通省近畿地方整備局企画部長 山口 豊 (社)日本技術士会事業委員会委員長 樋口吉隆 建設コンサルタンツ協会CPD委員会委員長、セントラルコンサルタント(株) 伊藤政人 地盤工学会継続教育システム委員会委員長、(株)大林組 西村隆司 日経BP社日経コンストラクション編集長 玄間千映子 経営労務コンサルタント、(有)アルティスタ代表
【研25】 9月21日(木) 10:50-12:20 プリズムハウス P201	鋼橋における点検・診断技術の高度化 鋼構造委員会	座長 森 猛 法政大学 話題提供者 館石和雄 名古屋大学 角 昌隆 西日本高速道路(株) 平林泰明 首都高速道路(株) 伊藤 裕一 東海旅客鉄道(株)
【研26】 9月22日(金) 10:50-12:20 プリズムハウス P201	環境対策と防災対策の融合ー日本的新戦略 環境工学委員会、地震工学委員会	座長 松井三郎 京都大学地球環境学堂教授 話題提供者 田中宏明 京都大学 田中 亮 日本上下水道設計 宮島昌克 金沢大学 池本良子 金沢大学 未定 国土交通省
【研27】 9月22日(金) 13:00-14:30 プリズムハウス P201	安全・安心・快適な地下空間の構築とデザイン 地下空間研究委員会	座長 戸田圭一 京都大学 話題提供者 石垣泰輔 関西大学 西田幸夫 東京理科大学 山田常圭 消防大学校 市原 茂 首都大学東京

目覚しく発展を遂げつつある計算科学と情報科学の知見をいかに有効利用するかは地震工学の重要な課題と思われる。格段の進歩を遂げている数値シミュレーション技術や整備が進められている地理情報システム(GIS)を駆使した新たな試みが地震工学においてなされつつある。本研究討論会では、その有効性や直面する課題等の紹介を交えながら、今後の展望についてパネルディスカッション形式で討論を行う。

インフラ構造物の維持管理分野の最前線におられる複合構造研究者、構造物管理者の方々から、現在、最先端の補修、補強、および改良技術とその課題について紹介して頂く。特に、新材料を用いた複合技術や複合構造による補修・補強・改良工事の施工事例や研究紹介を行い、維持管理分野における複合技術の将来性について意見交換を行う。

コンクリート標準示方書の改訂作業が進められている。そこでは、性能照査体系に基づいた思想が本格的に導入されるとともに、設計者の便を考えた設計マニュアルの整備も検討されている。一方、昨今のマンション耐震偽装問題に見られるように、不適切な構造物が建造された場合の影響は甚大である。そこで、コンクリート構造物において、性能照査体系を有効に機能させ優れた構造物を真に実現するための、設計・照査・検査の望ましい体系について討論する。また、不適切な構造物を生み出さない仕組み、もしそれが生み出されてしまった場合の社会的フェイルセーフのあり方についても考える。

技術者が継続的に自分の知識や技量を更新し、それを自らの仕事に役立てることは技術者としての社会的責任です。多くの学協会では、CPD制度等を通じて、技術者の能力の維持・増強を支援しています。また、教育機関における技術者教育や、学協会のこうした動きに呼応して、発注機関でも入札の際にCPD単位の取得状況などを評価することが行われています。平成17年4月1日に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」(品確法)では、契約にあたって、経済性に配慮しつつ、価格以外の多様な要素をも考慮することが謳われています。これを機に、技術評価の重要性とともに、発注者側の技術評価能力、それを何で担保するかについて関心が高まりつつあります。資格やCPDはその具体的な手段と考えられています。この研究討論会では、拡がりつつあるCPDについて、関係学協会での取り組みの現状やその活用状況、課題や将来展望を論じることにより、現在および将来の技術者にとってCPDはどうあるべきかを考えます。

過去に建設された膨大な橋梁ストックの高齢化が進展していく中で、限られた予算の下、これらの橋梁を健全な状態で適切に維持管理していくために、構造物の状態を合理的かつ効率的に把握するための点検・診断技術が求められている。本討論会では、鋼橋の点検・診断の合理化・効率化に向けて、現場における損傷・変状に関する情報収集技術、非破壊検査・診断技術、変状検知技術等に関する最近の技術開発動向や現場実務への適用の現状について紹介していただくとともに、今後の課題、展望について議論する。

我が国では、安全で住みよい国土環境を造る努力をしてきたが、度重なる地震災害、豪雨災害、豪雪災害などの経験から、これまで個別に行われてきた環境対策と防災対策を連携して行うことにより、効率的な社会基盤整備を行っていくことが不可欠となっている。平成17年度土木学会全国大会において、新しい視点から両課題を兼ねた対策として展開するための技術と制度の開発可能性について討論を行った。さらに、平成17年度土木学会重点課題研究の採択を得て、環境と防災連携型の技術と制度について検討を行ってきた。本討論会では、それらの成果をふまえて、環境対策と防災対策の融合した日本的新戦略について議論を行うものである。

ここ数年、国内外で大規模な地下鉄火災や集中豪雨による地下浸水が発生しており、地下空間の安全面から防災対策は決しておろそかにできない。一方、超高齢化社会の出現もふまえて地下空間をいっそう魅力あるものにするには、バリアフリーの充実やアメニティーの要素をとり入れたデザインの工夫がいっそう重要となる。本研究討論会では、大都市の地下空間における防災・バリアフリーの現状分析や、これに関連する研究成果について4名の方々に話題提供いただく。そして、それらを基に今後取り組むべき課題やその解決策について参加者全員で総合的な討論を展開し、「安全・安心・快適な地下空間の構築とデザイン」の今後の方向性を明らかにする。

日時/会場	題目	座長および話題提供者
研究討論会(国際関連行事)		
【研28】 9月20日(水) 16:30-18:00 コアステージ2階 大会議室	「土木技術の将来—土木技術者の環境問題への挑戦」 “Future of Civil Engineering: Civil Engineers’ challenges to Environmental Issues” 国際委員会	座長 高橋 修 日本工営 話題提供者 全国大会に参加される海外協定学協会からの参加者に話題提供いただく。
グローバル化の進展とともに、持続可能な発展に果すべき土木技術および土木技術者の役割はますます大きくなっている。国内のみならず広域的な環境問題に土木技術者はどう取り組んでいるか、また今後、どのように取り組むべきか、土木技術者に求められる資質とは何か、学会は土木技術者の資質向上のために何をすべきか、などの観点から討論する。		
【研29】 9月21日(木) 10:50-12:20 コアステージ2階 大会議室	アジア域内における設計基準の調和に向けて ACECC担当委員会	座長 本城 勇介 岐阜大学 話題提供者 堀越 研一 大成建設(株)、全体概要 森 伸一郎 愛媛大学、耐震分野 上田 多門 北海道大学、コンクリート分野 山口 栄輝 九州工業大学、鋼構造分野 鈴木 誠 清水建設(株)、地盤分野 佐藤 尚次 中央大学、荷重分野
アジア土木学協会連合協議会(ACECC)はJSCE(日本)をはじめ8ヶ国の土木関連学協会により構成され、アジア地域の持続可能なインフラ施設の整備・発展を目指す組織である。その活動の一貫として、アジア域内のコード策定に関して相互連携の重要性が議論され、JSCEを中心として具体的な方策を検討してきた。土木工学における異なる分野のコード作成に携わる技術者、研究者が一同に会し、相互の情報共有と国際戦略を議論することを目的として11月にACECCが主催しワークショップが開催されることとなった。それに先立ち、日本側の意見をとりまとめるべく、地盤、コンクリート、鋼構造、耐震などのコード策定関連技術者が集まり、お互いの国際戦略に関する情報交換と、アジアを取り組んだ形での国際戦略のあり方を討論する。		